


氏名（カナ氏名）	瀬川 至朗（セガワ シロウ）	
主な担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナリズム専門研究セミナー ・ジャーナリズム・メディア専門研究セミナー ・ジャーナリズムと公共 ・地球環境問題と持続可能な社会 	
専門分野	ジャーナリズム論、メディア産業論、環境問題とメディア、科学技術社会論	
略歴および現在の活動（社会的活動等含む）	<p>東京大学教養学部教養学科（科学史・科学哲学）卒。毎日新聞社でワシントン特派員、科学環境部長、編集局次長、論説委員などを歴任。1998年、「劣化ウラン弾報道」で、取材班メンバーとしてJCJ奨励賞（現JCJ賞）を受賞。また記者時代に地球環境問題の報道に取り組み、1992年のブラジル・リオでの地球サミット取材した。</p> <p>2008年より早稲田大学大学院政治経済学術院教授。政治学研究科ジャーナリズムコースのプログラム・マネージャー。日本科学技術ジャーナリスト会議理事。一般財団法人・山本美香記念財団理事。公益財団法人・東京大学新聞社編集諮問委員。</p>	
主な著書・論文、その他学生に読んでもらいたい本	<p>主な著書に『健康食品ノート』（岩波新書、2002年）、『心臓移植の現場』（新潮社、1988年）。</p> <p>共編著に『メディアは環境問題をどう伝えてきたのか』（ミネルヴァ書房、2015年）、『英和・和英エコロジー用語辞典』（研究社、2010年）、『ジャーナリズムは科学技術とどう向き合うか』（東京電機大学出版局、2009年）。</p> <p>共著に『震災後に考える 東日本大震災と向きあう92の分析と提言』（早稲田大学出版部、2015年）、『大学病院ってなんだ』（新潮文庫、1998年）、『アジア30億人の爆発——迫り来る食糧危機、資源戦争』（毎日新聞社、1996年）など。</p> <p>主な論文に「新聞の科学報道とジャーナリズムの規範的機能」（『早稲田政治経済学雑誌』2009年6月）など。</p>	